

## 在宅医療コーディネーター養成研修会(第6回) 報告書

日時・場所	平成 29 年 3 月 26 日 (日) 14 : 30~16 : 45 高松国際ホテル 瀬戸の間
参加者	参加者 148 名 (コーディネーター48 名、委員等 17 名、医師 16 名、その他 67 名)
内 容	<p>◆特別講演          テーマ : 「いのちを受け止める町づくり」          座長 : 大橋委員 講師 : にのさかクリニック ニノ坂 保喜先生</p> <p>◆授与式          ・修了者氏名・在籍施設名読み上げ          ・代表者 3 名に①修了証書、②在籍証明書、③バッヂを授与</p>
結 果	<p><b>1、特別講演について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・できるだけ本人の気持ちを大切に、周りがサポートできる方法を考えたい。</li> <li>・日本の風土もあるが、患者さんを中心に周りの家族にも幅を広げて、どう支援していくか考えること。最後の在宅がとても重要。</li> <li>・病院の役目・務めは、病気を治すこと、毎日手術をすること、治療をすること、健康を守ることに加えて、患者さんを家に帰すこと、元の生活を取り戻すことが重要な視点。</li> <li>・治らない状態になった時でも、家で最期を迎えることもできる。訪問看護師は在宅の要。</li> <li>・在宅医療の場合、生活の中に医療があり、本人のペースで生活ができることがメリット。</li> <li>・医者や看護師、家族、ボランティアが情報交換し、チームの役割→理念を共有することが重要。</li> <li>・顔が見える関係が出発点。お互いがお互いの立場を認め、意見が言える・信頼し助け合える関係がチームである。</li> <li>・患者の安心と希望を支えるのが在宅チームの仕事である。</li> </ul> <p><b>2、アンケート結果より</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○年齢 40 歳代が最も多く (38%)、次に 50 歳代 (30%)、30 歳代 (18%) であった。</li> <li>○性別 男性 (34%)、女性 (66%)</li> <li>○参加者の職種は、10 職種 (医師、歯科医、看護師、薬剤師、保健師、ケアマネジャー、MSW、社会福祉士、理学療法士、作業療法士)。うち、看護師とケアマネジャーが同率で一番多く (28%) 続いて医師 (16%)、MSW (4%) だった。</li> <li>○公開講座の感想は、良かったが 72%、まあまあ良かったが 26% だった。</li> <li>○現在地域においてどれくらい多職種間での連携ができていると思うか、0 点 (全く連携できていない) から 10 点 (とても連携できている) まで、該当すると思う点数を選択してもらったところ、最も多いのが 3 点 (13 人)、次が 5 点 (10 人) であった。</li> </ul> <p>※ご意見・ご感想については、別紙参照。</p>